



連携室だより



Japan Community Health care Organization SENDAI MINAMI Hospital


〔病院の理念〕

本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

〔病院の基本方針〕

- 1.急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
- 2.地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
- 3.個人情報厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
- 4.全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。



	目次
	院長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
	栄養指導について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
	地域医療・介護連絡会開催報告、勉強会のお知らせ・・・ 3
	地域連携室よりお知らせ、午後外来のお知らせ・・・・・・ 4

■院長挨拶

あさくら とおる
朝倉 徹



皆様には平素より本院が大変お世話になっております。

昨年は新天皇の即位や消費増税など国内のイベントが続きましたが、本院にとって最も打撃だったのは9月に報道で発表された地域医療構想の再検証要請の対象となったことでしょう。これは全国の公的、公立医療機関を対象とした検証で、がんや救急医療などの急性期医療、またへき地医療や災害医療など公的な医療を提供していないとの評価のようでした。仙台医療圏には急性期医療に特化した大規模病院が多くありますが、本院の存在する太白区東南部、名取市には総合病院がなく、亜急性期～回復期患者の受け入れニーズは増多しております。本院としては宮城県との交渉を通じて本院の地域に対する貢献度や必要度を説明して病院の存続を図っていく所存であります。

さて令和の時代となって、日本を取り巻く環境は益々混沌となってきています。英国では Bregsit を問う下院選挙でジョンソン首相の保守党が圧勝し、EU 離脱がいよいよ現実となってきました。アジアでは香港の民主化運動と中国政府のせめぎ合いが一向に収まる気配がなく、北朝鮮の核弾頭ミサイル戦略は確実に脅威となってきています。米国でもアメリカファーストを掲げるトランプ大統領は弾劾に訴追されるも支持率は高く、次も再選の可能性が高いとされております。いずれにしても欧米を含む先進各国は極端な右傾化や左傾化に流れ、自分の国さえよければの一国主義が蔓延する可能性があります。

日本の外交には是非頑張ってもらいたいと思いますが、内政面では少子高齢化をはじめ不安要素が山積しており、内憂外患、はたしていかなる道を歩むのでしょうか。



外来栄養食事指導を通して感じること

栄養管理室長 齋藤 裕子

毎日患者さまとお話していると、食事についての向き合い方は様々だなと感じます。一つの傾向は『わかっていただけ、きっかけがなかった』患者さま。先生から「次回、栄養指導ね」と言われたのをきっかけにすでに改善を始めており、初回お会いした時は「毎日のお菓子の習慣は止めました」「ラーメンを止めてお弁当を作ってもらった」などの言葉を時折笑顔で話してくださいませ。

また別の例としては「夕食を食べ過ぎていると思うけど分量は減らせない」と方法がみつけれない方。お話をお伺いしながら「高エネルギーの鶏唐揚げを鮭の塩焼きへ、これだけでも160kcal減り、たんぱく質は十分に摂れますよ」と説明し納得していただきます。また、野菜のおかずの追加を提案すると「減らすばかりではないんですね」と安心した表情に変わることもあります。

何度か指導が必要と思われる方は食事を作る習慣のない独居の方です。朝食はご飯、インスタントみそ汁、漬物。昼食はカップ麺やコンビニ単品メニュー。夕食は刺身とアルコール。エネルギーが不足している上、塩分は多く、たんぱく質、ビタミン類など栄養素が不足しています。ご本人は「これでいいんだ」と変える気持ちがないと、指導が平行線になってしまいます。このままの食事を続けると、どのような悪化につながる可能性があるのかを説明します。その後「まあ次までは何かやってみようか」という気持ちを何とか引出し、本当は変えていただきたい習慣は山盛りなのですが、そこはご本人ができそうなところ1, 2つ提案。朝に納豆を追加するか、昼食のカップ麺をコンビニの幕の内弁当にするか、また夕食のアルコールを減らすか……。改善した食習慣が検査データの改善につながるモチベーションも上がるので、そこに期待をしながら次回お会いするのを待つ状況です。

先ほど例に出したアルコールですが、なかなか「やめる、減らす」という方は少ないのが現状です。「前より減った」「そんなに多くない」「肝臓は丈夫だ」といろいろな理由があるようです。しかし、何度かお話しているとその言葉の裏には、健康に関しての不安やどうにかしないと、との気持ちを感じます。やはり習慣を変えていくのは簡単ではなく、ご本人の気持ちの納得が必要で時間を要する場面が多いのも事実です。

今後も患者さまとの会話を通し食事の改善を図り、疾病の改善につなげていきたいと思っております。栄養食事指導のご依頼がございましたら、どうぞお気軽にご利用いただきますようお願い申し上げます。当院、地域連携室へご連絡をお待ちしております。



個別栄養指導のお知らせ

貴院に通院されている患者様で栄養指導が必要とされる方がいらっしゃいましたら、ご紹介ください。

○対象者

栄養食事指導算定が可能な患者様

完全予約制です



○ご依頼方法

栄養食事指導用の診療情報提供書に必要事項をご記入の上、採血データと一緒に地域連携室へFAX送信してください。折り返し予約票をお送り致します。

【専用紙、栄養食事指導用の診療情報提供書は当院ホームページよりダウンロードしてご利用ください】

JCHO 仙台南病院 地域医療・介護連絡会開催報告

「ケースカンファレンス」

令和元年 10月31日(木) 18:00～

当院、地域医療・介護連絡会では、より質の高い医療を推進するため、定期的に地域の医療機関様とカンファレンス等を行っています。

今回は在宅に退院された患者さんについて、若林訪問看護ステーション 所長 佐藤功子様、マイムケア 管理者 主任介護支援専門員 小林恵子様、当院主治医 遠藤副院長、地域連携室長(副看護部長) 開沼、病棟師長及び病棟看護師、連携室スタッフにてケースカンファレンスを開催しました。病院側としてはご家族に出来る限りの指導を行い、退院準備を整え自宅へ戻っていただきましたが、実際に在宅に戻ってからの様子がどうだったのか、気になっていたところのお話を聞くことが出来ました。その他、訪問看護師 佐藤様より災害時の病院側の受け入れ等についてや、ケアマネジャー 小林様からは自然災害時の検討課題等も上がりました。今後も、退院支援の質の向上を目指しケースカンファレンスを継続的に行っていきたいと考えております。



※次回の地域医療・介護連絡会は3月に予定しております。日程等決まりましたら、お知らせ致します。

褥瘡・NST 勉強会のお知らせ



令和2年1月28日(火)

「高齢化社会におけるロコモフレイル外来と糖尿病看護」

講師：糖尿病看護認定看護師

山本 美紀

令和2年2月25日(火)「創傷被覆材の上手な使い方」

講師：皮膚排泄ケア認定看護師

大網 さおり

17時30分から当院旧職員食堂にて開催予定となっております。

参加ご希望の方は勉強会前日までに、別紙同封の申し込み用紙を地域連携室宛 FAX をお願い致します。

■ 地域連携室よりお知らせ

☆ ご予約について

いつも当院へご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年12月電子カルテ導入後より、地域連携室にご連絡をいただきご予約をお取りする際に、以前より時間がかかりご迷惑をおかけしております。ご予約をとる際、患者様のお名前(漢字)・生年月日が必要となりました。診療情報提供書のご準備が来ている場合、FAXしていただくとスムーズにご予約をお取りできますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

【地域連携室の場所が変わりました】

12月電子カルテ稼働と同時に、1階売店隣に移動しました。これからも迅速かつ柔軟な対応を心掛け、地域医療・地域包括ケアの要となり、地域の皆様には選ばれるよう力を尽くしていく所存ですので、これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。



午後外来のお知らせ

当院では、内科・外科の2科において、午後の一般診療を行なっています。

診察受付時間:13:00 から 16:00 まで

診 察 日:月曜日から金曜日までの平日



お願い

午後外来へご紹介いただく場合は、お手数ではございますが、地域連携室(直通:022-306-1740)へご連絡をお願い致します。
お急ぎではない患者様に関しては、午前外来をお勧めください。



発行: 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院 (JCHO仙台南病院)

仙台市太白区中田町字前沖 143 番地 (代表) TEL 022-306-1711 FAX 022-306-1712

地域連携室(直通) TEL022-306-1740 FAX022-306-1741

ジェイコー

